

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマイル御崎		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	PECS等を用いた意思決定支援の推進	発語が困難な利用児に対しても、PECS等の視覚的支援ツールを活用し、自らの意思で選択・決定ができるよう意思決定支援を軸とした関りを徹底している。	4月からの新体制において、心理士・言語聴覚士との連携をさらに深め、個々の発達段階に合わせたコミュニケーションツールの評価と活用範囲の拡大を図る。
2	長期的な視点に立った継続的支援	ご利用児本人の意思表示や安心できる居場所としての機能を重視した関りを継続して行っている。	卒業・退所後を見据えた移行支援の充実や、外部機関とのスムーズな情報連携をさらに強化していく。
3	多職種連携による専門的支援の展開	心理士や言語聴覚士、作業療法士や理学療法士等の専門職が介入し個々の課題に合わせた専門的支援を行う体制を整えている。	4月からの新体制を明確にし個別支援や集団支援等の質をさらに向上させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	行事等における案内や周知の不足	保護者会においてアンケートの案内や企画意図の説明が一部不十分だった。	行事前のチェックリストを作成し周知事実が漏れなく伝わるようスタッフ間の共有を徹底する。
2	スタッフ間及び専門職等との情報共有のスピード	支援の進捗や方針決定において関係者間でのタイムリーな情報共有に一部遅れが生じる事があった。	報告・連絡・相談のルートを再定義しグループチャットや個別チャット等の適切な運用ルールを確率する。
3	環境整備及びマニュアルの定型化	専門的な支援が増えるなか手順が属人化しており専門職のアドバイスを受けながら同じような質で対応出来る仕組みがまだまだ途上である。	新体制稼働に合わせて各専門職の役割と業務等をマニュアル化し標準化していく。